



産科のご案内

大阪急性期・総合医療センター
4階南病棟



大阪急性期・総合医療センター 産科



- * すべての妊娠・出産について、医師と助産師が共同で診察にあたっております。
- * 妊娠経過に異常の無い方については、助産師外来を受診していただく事で、妊娠や分娩についての相談をゆっくりとしていただく事が可能です。
- * 分娩後は早期母児接触を行い、母児同室で赤ちゃんとおかあさんのふれあいを大切にしています。



※お母様に写真の使用許諾を得ております

基本方針



* 当センターでは、より安全で、よいお産をしていただくために、産科医、助産師、新生児科医だけでなく、麻酔科をはじめとして、各診療科の協力を得て、妊娠分娩の管理にあたっております。妊婦さん自身が考えられるよりよいお産のために我々が何をできるかについて、是非ご相談ください。



当センターの特徴



- * 自然分娩と母乳育児を支援しています。
- * 無痛分娩を行っています
- * 母子の合併症への対応は、他科と連携して支援しています。
- * セミオープンシステムを行っています。
- * 助産師外来、母乳外来を行っています。
- * 母児同室をおこなっています
- * MFICUは6床を完備しており、24時間体制で母子の救命救急に対応しています。
- * 産後ケア事業を行っています。
- * 助産師分娩（院内助産）を行っています



助産師外来



- * 2006年から開設した助産師外来も、2018年に住吉母子医療センターが開院されたことにより、カーテン越しで行っていた助産師外来の保健指導室が個室となり、より一層プライバシーが保たれるような環境になりました。
- * 妊娠24週から産婦人科医が許可した、ローリスク妊婦を対象に、正常に経過するための妊娠中の生活の仕方について保健指導を行い安産に導くためのお話をしていきます。



助産師分娩（院内助産）



- * 院内助産とは、緊急時の対応ができる医療機関などにおいて、正常経過の妊産婦のケアおよび助産（分娩(ぶんべん)の介助や新生児のケアも含む）を助産師が自立して行うものです。（厚生労働省HPより）
- * 病院内にありながら、みなさんの持つ「産む力」を存分に発揮し、自然な雰囲気の中で分娩できるよう、私達助産師がサポートします！



MFICU



- * 当センターのMFICUは6床で、40床の一般産科病棟とともに、大阪市南部の産科医療における基幹的役割を担っています。各部屋には遠隔でも確認可能な分娩監視装置・生体モニター等が備え付けとなっており、異常の早期発見に努めています。またそれぞれが個室であるためプライバシーにも配慮した設計になっています



産後ケア



- * 2018年10月1日より、大阪市産後ケア事業をおこなっています。
- * 産後ケアとは、退院後に支援が必要な母子を対象にショートステイの利用を通じて、母子同室で助産師や看護師等の専門スタッフから、体と心・育児のサポートを行うことをいいます。
- * 現在は生後2か月までの親子を対象に行っています。「家でがんばったので休息をしたい」「育児のことをもう少し教えてほしい」「NICUから退院後に母児同室をしたい」など利用する方の希望にそって行います。



病棟での新人教育について



- * プリセプター制度を導入しています。
- * 4月に産科特有の勉強会を開催しています
(帝王切開の看護、NST判読、産科救急、など
10項目程度)
- * 定期的にNCPR講習を開催しています。
- * 産褥の看護・MFICU・分娩を1年間かけてローテーションしています。
- * 産褥看護はPNSを導入しています。
- * 分娩10例までは先輩助産師とペアで実施
- * 沐浴指導・退院指導の実施



たくさんの研修をおこなっています！

- * 周産期災害訓練
- * シミュレーション研修
(緊急帝王切開・産科危機的出血など)
- * J-CIMELS研修など
- * CLoCMiP(助産実践能力習熟段階)
レベルⅢ認証を推奨しています

